

1 トヨタ車体 株式会社

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none">● トヨタ車体長期環境ビジョンにおいてライフサイクルCO2排出量の削減に取り組んでおり、現在のポテンシャルを算定して、今後どの段階の排出量のインパクトが大きいかを把握することで、サプライチェーンを通じた削減を効果的に展開したい。
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none">● サプライチェーン全体の排出量を把握し、効率的な削減方策の検討とその効果確認に活用する。● CDPなど外部からの企業評価に対する回答や、当社ホームページ等で算定結果を公開し、自社の環境活動をPRする。
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none">● 温室効果ガスを多く排出するカテゴリと排出量を把握し、サプライチェーン全体の中でも優先して効果的な削減につながる。● 他部門との連携により、社内における環境活動への認知が深まる。
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none">● 環境活動を統括する部門が社内の取り纏め役となり、関連部署から算定に必要なデータ（財務、人事、購入情報など）を収集し、算定している。

2

トヨタ車体 株式会社

各社の考え方

□ サプライチェーン
排出量の削減に
向けて

- カテゴリー11（販売した製品の使用）から排出される温室効果ガスがサプライチェーン全体の排出量の中でも大部分を占めることから、自動車の燃費向上に寄与する軽量化等の取り組みを積極的に推進する。
- 次に排出量の多いカテゴリー1（購入した製品・サービス）はCO2排出量が少ない原材料や加工方法への変更等、サプライヤーと連携した推進が必要。

□ サプライチェーン
排出量算定の課
題

- 原単位が金額ベースの場合、物量ではなく購入金額の変動等がCO2排出量に影響する。
- 連結子会社（国内・海外）へ展開する際には、特に海外では活動量、原単位データの整備が必要である。
- サプライチェーンにおける具体的な削減対策を行った場合の効果が、排出量算定の原単位に連動しなければ効果が数値として現れないため、どのような原単位を使うかは、必要に応じて見直す必要がある。

□ その他（任意）

3 トヨタ車体 株式会社

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 車両 生産台数	● LCAデータ
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資額	● 資本財の価格当たり排出原単位※
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー種別 年間使用量	● エネルギー量当たりの排出原単位 (CFP-DB)
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 車両 生産台数	● LCAデータ
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別排出量	● 廃棄物種類別原単位※
カテゴリ6「出張」	● 交通手段別 支給額	● 交通手段別原単位※
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 従業員数	● 従業員数・勤務日数当たり排出原単位※
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● 対象外	● 対象外
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● 生産車両のトンキロ	● 温対法算定・報告・公表制度における【輸送】に関する排出係数※
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 対象外	● 対象外
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 製品の燃費、生涯走行距離、使用年数	● 燃料別排出量原単位 (CFP-DB)
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 車両 生産台数	● LCAデータ
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● 対象外	● 対象外
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 対象外	● 対象外
カテゴリ15「投資」	● 対象外	● 対象外

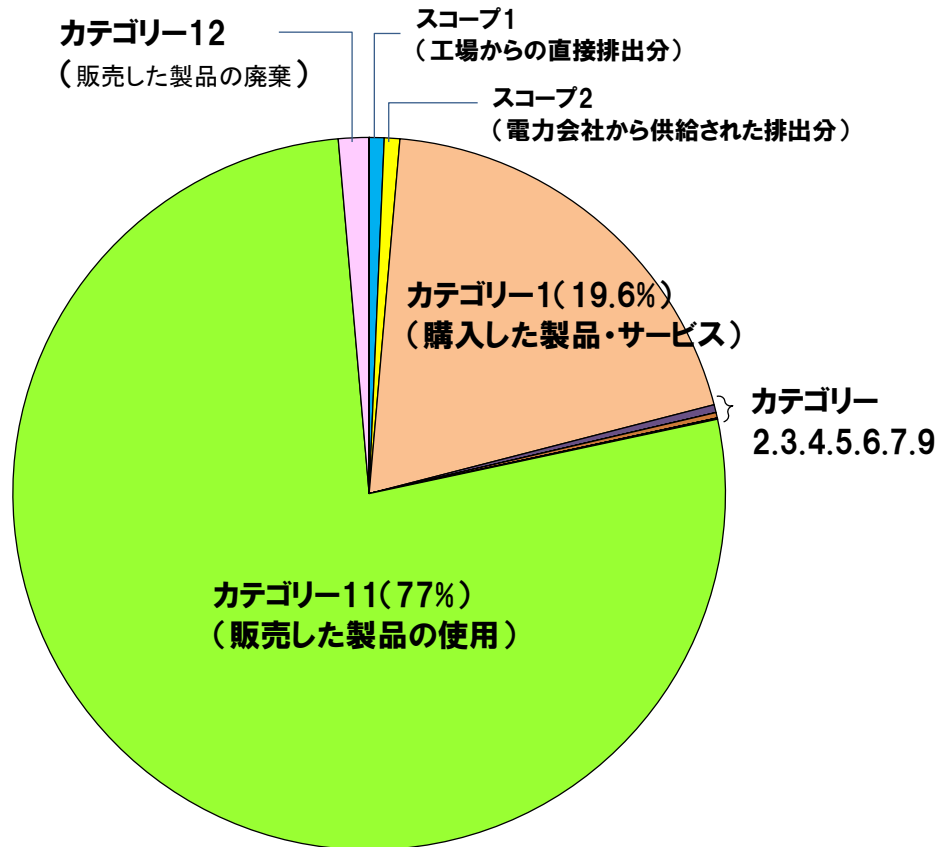
*「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量算定のための排出原単位データベース」

4 トヨタ車体 株式会社

算定結果

● サプライチェーン排出量

<16年度 スコープ/カテゴリー別 排出割合>



スコープ/カテゴリー		内訳比率 (%)
スコープ1		0.7%
スコープ2		0.7%
カテゴリー1	購入した製品・サービス	19.6%
カテゴリー2	資本財	0.4%
カテゴリー3	Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	0.001%
カテゴリー4	輸送、配送（上流）	0.2%
カテゴリー5	事業から出る廃棄物	0.004%
カテゴリー6	出張	0.003%
カテゴリー7	雇用者の通勤	0.03%
カテゴリー8	リース資産（上流）	-
カテゴリー9	輸送、配送（下流）	0.02%
カテゴリー10	販売した製品の加工	-
カテゴリー11	販売した製品の使用	77.0%
カテゴリー12	販売した製品の廃棄	1.4%
カテゴリー13	リース資産（下流）	-
カテゴリー14	フランチャイズ	-
カテゴリー15	投資	-